



11月1日に一部オープンした「道の駅ようか但馬蔵」

道の駅ようか「但馬蔵」 たじまのく

地域交流ゾーンがオープン、

11月1日、八鹿町高柳に建設を進めていた道の駅ようか「但馬蔵」の地域交流ゾーンがオープンしました。通行の安全や地域産業の振興、地域情報の発信などに寄与する同駅の概要を紹介します。

「道の駅」と地域産業振興の機能を有する施設

道の駅ようか「但馬蔵」は、道の駅と地域産業振興の機能を併せ持ち、通行の安全や地元産農産物の販売、地域資源の発掘、地域間交流の促進など、地域の活性化を図ることを主な目的とした施設です。

建設場所は、八鹿町高柳の国道9号沿いで、北近畿豊岡自動車道「八鹿インターチェンジ（仮称）」建設予定地付近。敷地内には、総合案内所や農産物直売所、土産物コーナー、レストランなどからなる「地域交流ゾーン」、「バスターミナルゾーン」、道路情報案内や公衆トイレなどからなる「情報ターミナルゾーン」を配置。今回、地域交流ゾーンとバスター

ミナルゾーンがオープンしました。

（情報ターミナルゾーンは、国土交通省が整備し、来年3月に完成予定）

また、事業実施にあたっては、施設の設計・建設、運営および維持管理を効率的・効果的に実施することを期待して、民間活力導入手法の一つである「PFI方式」を採用。民間企業3社により設立された「株式会社道の駅ようか」が管理・運営を行います。

関係者ら約70人が参加した竣工式では、梅谷市長が「国土交通省から道の駅として承認され、素晴らしい施設が完成しました。養父市の活力を生み出すために、あわてず着実に発展させなければなりません」とあいさつ。式典後には、出席者が各施設を見学しました。